



長女が読む本

定 価 980円

著 者 神津カンナ

発行者 押鐘富士雄

発行所 株式会社 三 笠 書 房

東京都文京区後楽2-23-7 〒112

電話 03-814-1161 <代表>

振替口座 東京3-22096

落丁・乱丁本はお取替えます。誠宏印刷・宮田製本

© Kanna Kouzu Printed in Japan. 1988

ISBN4-8379-1373-3 C0095

長女が読む本

神津カナ

三笠書房

長女が読む本・もくじ

長女の「決断」は何回も揺れ動く 11

長女は気軽に強引に友達を誘えない 16

こんなところが「長女」といわれる 21

長女のホンネには二種類ある 25

長女は父親の思い入れを感じながら成長する 28

長女は人見知りしない次女や末っ子が羨ましい 32

長女はいつも「秘密」を持っている 37

長女は頼まれごとを断るのがヘタ 41

長女は気楽な人づき合いが苦手 45

長女は「いい加減さ」になじめない!? 49

第2章

長女のファミリー

53

帰宅直後の話し方でわかる「きょうだい順位」 55

留学で長女が見たアメリカ、次女が出会ったアメリカ人 60

長女の面倒見のよさはきょうだいの自立を妨げる!? 65

次女は長女を通してひとり立ちする 70

弟に教えられた、私が「人生の冬眠期間から目覚めるとき」 74

年に二度の長女の親孝行 79

長女と母親のおかしな関係 84

末っ子は人を楽しませるエンターテイナー 88

「今、自分は何をしたらいいか」を常にはつきりつかんで歩いていく長女 93

十四歳下の弟は末っ子でもやはり長男は長男 97

第3章

長女の恋・結婚

101

好きになったら、自分から恋の告白をせずにいられない

103

長女は「二つの顔」で異性とき合う

107

長女が夢見る結婚とは

111

長女のつき合うタイプ・結婚するタイプとは

116

恋する長女は驚くほど大胆になる

121

長女は結婚願望が薄い!?

128

長女はコンピュータ結婚より王子様との出会いを夢見ている

132

第4章

長女のライフ・スタイル

137

長女の料理は時間がかかる!?

139

ワンランク上の女になつて料理の醍醐味を味わう

143

着るもの一枚でこんなに言動が変わる私

149

第5章

長女の生き方・考え方

179

- 長女の洋服ダンスの「中身」 152
芝居や映画を観るときの私の傾向 158
人との出会いのある旅が好き 162
長女は暇つぶしにも「テーマと目標」を決める 167
つき合いベタの長女はアフターケアが勝負 171
オフィシャルな場で家庭的な長女が妹を見習わなければならないところ 175

- きょうだい順位で有名人を「性格分析」してみると… 186 181
ほめられて伸びるひとりっ子・叩かれて成長する長女 186
私の生き方を決めた三島由紀夫さんの言葉 190
長女に向く仕事・向かない仕事 195
長女は占いに影響されやすい 200
長女は陰でこっそり努力する 204
女にとって結婚って何？ 209



両親から長女が学ぶ「結婚の本質」

コンプレックスとどうつき合うか

私が選択し、歩んできた道

217 214

あとがき

227

222

第1章

長女の悩み

長女の「決断」は何回も揺れ動く

長女は、優柔不断である。何か決断を迫られることがあっても、とつさに決断を下すことは苦手だ。どうもぐずぐずと迷うことが多い。

そんな特徴は、私にもある。いや、もつといえ、ときにはそんな性格を自分で持て余してしまうところがある。

たとえば、デートをしているとき、男性から「何を食いたい？」と聞かれて、答えられないことが多い。

奥ゆかしい大和撫子を気取るため遠慮しているわけではない。本当に、何を食べたらいいかを決めることができないだけなのである。

和食もいいし、シャブシャブっていうテもあるなあ。ちよつぱり、お寿司を食べたい気もするし、そうねえ、スパゲッティというのもこれまたいいなあ。でも、せっかくのデートだから、

やっぱり、フランス料理かなあ……。

頭の中においしそうな料理を描きながら、あれこれ迷っていると、

「自分の好みも、はつきりいえないような女性ではダメだ！」

彼もじれたのか怒っている。

「……いえ……、好みはいくらでもあるんですけれど……」

もごもごと、私は口ごもつてしまう。

遠慮もしていないし、ちゃんとした自分の好みも持っている。でも、その場になると、ちょっとばかり考えてしまうのだ。

もし、私がイタリア料理がいいといって、彼がお昼にスパゲッティを食べていたら、どうしよう。きっと、彼はそんなことをおくびにも出さずに、素敵なイタリアン・レストランに連れていってくれるに違いない。そんなことになったらかわいそうだ。

そう思うから、私は、あれこれ迷いながらも話をのばして、じつは彼が何を食いたいのか探り出そうとしているのである。

そんな考え過ぎる部分が、長女にはある。そして、それは人には優柔不断ととられるのだ。

長女は、小さな頃から、いつでも下の子の面倒を見る習慣がついている。この子は今、何をしてほしいのか、あの子は泣いてるけど、どうしたのかしらという調子である。常に周囲に気

を配って、すべきことをしてから自分のことをしてきた。まず最初に、自分のことを考える——というのではない。きょうだいや周囲の思惑を察知して、次に自分があつたのである。

「どこに行きたい?」「どこでもいいわよ」

「何をしたい?」「何でもいいわよ」

「映画はどう?」「あら見たいわ」

「公園は?」「いいわねえ」

とまあ、こんな調子である。これでは何も決まらない。おかげで、優柔不断な女だとレッテルをはられることになる。

私の優柔不断は、食べ物に限らず、あらゆることに及んでいる。たとえば買物にしても、デパートでブラウス一枚でも迷い出したが最後、時間がどんどん経っていく。結局、何も買わずに、クタクタに疲れて家に帰ってくるということが多い。

しかし、そんな私も、ときには驚くべき決断力を発揮して人を驚かせることがある。ある日、初めて訪れたフォードの代理店で、九〇〇万円もするワゴンタイプのエコノラインを指さして、「これを下さい」とやったときは、さすがに販売員も驚いていた。まるで肉屋で、ステーキ肉を五〇〇グラムくらい買うような調子で決めたからである。

普通、車という商品は、いくら気に入ったからといって、試乗もせずにパツと買う品物では

ない。その気になれば一〇年でも二〇年でもつかうものであり、何しろ高価な商品だからである。飽きたからといって、すぐに買い替えられる代物ではないのだ。

「あー、お客さま、よくお考えになつてから決められたほうがよいと思いますけれど……」
私のような客はよほど珍しかったのか、あるいは不安にとらわれたのか、販売員は私に何やら忠告し始めるありさまであつた。

しかし、私はもう決断したのだ。

「私、これがほしいんです。売って下さい」の一点張りである。

自分のコート一枚選べなくて、時代遅れのものを着ているような私も、ときどきはこんなふうに、パツと人が驚く買物をしてしまう。ただし、正確にいうと、その場で決めたのではない。もう一年以上も前からカタログを取り寄せて、よく考えた末の買物である。慎重に検討を重ねたうえの決断なのである。

しかし、車を買う場合は、何箇所かのディーラーを回り、見積りを出させて、値引きの多いところで買う。価格が高いものだから、ディーラーによつてはかなりの差が出ることは、ざらである。

一度買うと決めたものは、長女はすぐに手に入れたくなる。駆け引きをするのは面倒臭いし、また、苦手でもあるのだ。ひとこと、「少しまけて下さい」といい出すことができない。相手

の言い値で買ってしまったて、あとで後悔することが多い。電卓片手の相手に、「こんなところでどうですか」などといわれれば、否応もなく、うなずいてしまう。

次女や末っ子となると、この駆け引きがじつにうまい。秋葉原に電気製品を買いに出かければ、店を何軒も回って、「あら、あっちの店では、これだけ値引きしてくれるっていつてたわよ」という調子で、値切っていく。やつと値段が決まっても、いざお金を払う段になると、「あつ、その端数の九八〇円も、ついでにまけてね」という具合である。

あまりのタイミングのよさに、店の人も、思わずさらに値引きをしてしまう。長女の私から見れば、まるで手品のようである。

次女や末っ子は、自分の好みがはっきりしているから、買物であれこれ迷うことが少ない。さほど相手の思惑を気にするタイプではないから、自分のいいたいことはきちんと主張する。そうやって買物のテクニクを磨く。

一方、長女は、いつもはグズグズ優柔不断なところがあるのに、ときどき、そのうつぶんを晴らすかのような勢いで、あつと驚く決断力を見せるのである。

これは何も買物に限ったことではない。これはあとでおいおい述べるが、男のことだつてあるところがコワイと思うけどなあ。